

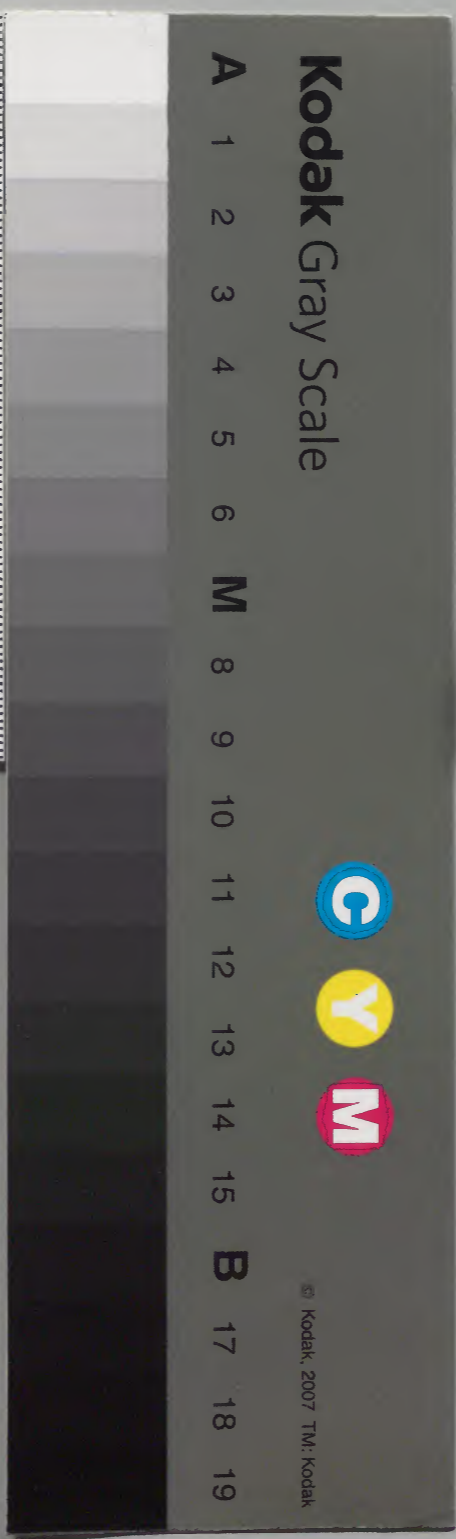
農家益後篇

坤

和書門			
三〇三六七			
七	冊	架	函
類			

內閣文庫			
和書			
三〇三六七			
六	冊	架	函
類			

內閣文庫			
番號	和	30367	
冊數	7 ( 7 )		
函號	183	238	





農家益

續篇 坤

大藏永常著

接取たる苗末冬圃の仕なり

のうら南河うけ少をふさげたる西風よてつ

かゝる海濕氣うけ末を見立圃下 ○馬嶋五人

の畦をけりぬ幅小深サ八九寸乃溝を長く堀こり

掘たる接苗乃末末地より二三寸位より傾斜止根

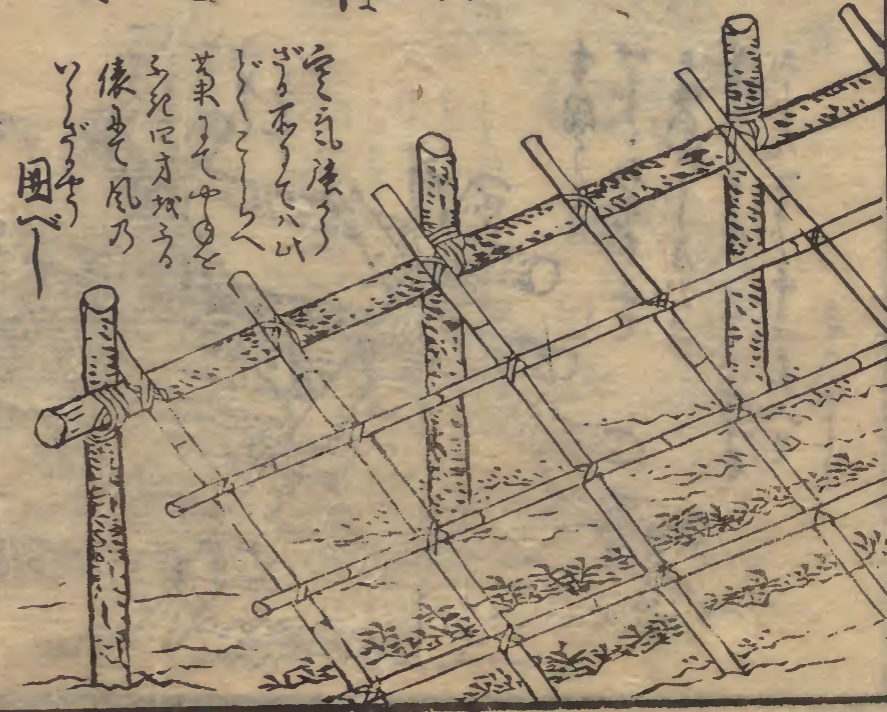
並べて土沃接口近切け又溝を掘り年々の如く

又柱を成切り年々より一尺がまの如く然りて

農家益 續篇 坤 一



雪めて小庭ばかりたえ  
 うり雪乃ろくは園の小  
 丸ををりてさうとを  
 ぬりてさうとをさうとを  
 木痛事あり○武別  
 より東の園へ去和うに  
 て木乃成さるや一統上  
 えと 気強らんば冬よ



雪を後  
 ざらあつてハハ  
 其来してやの  
 ちれに方城う  
 俵を風乃  
 田

て木乃痛く基一と  
 此之を等の園と雪園  
 て切取たる以の株  
 実付したる苗近も  
 右の園は如くを合て  
 下切株植木は  
 乃土と根と切つて  
 右後又ハ其あては山とせ



逆り古後の  
 田  
 ち切つて  
 山

農家益 續篇 申





如代りて望妻中極より方利方之

○掘起してその日或三里の道で洗うれば其根は

何れも五本一木より根も葉にも節破りて十字字

なりと根乃風にあつてさうなりして遠くへ又二日

もあつて遠くへ木の如く一本づつ根を根切をさう

て根中み葉乃傍と老竹お葉葉を節破りて老て

をさうとて又さうとて木の如くさうなりて又さう

てさうりの如くして根のところへは葉破りて接せの

いふらなりしてさうとて葉

て老葉の遠くして遠くへ

○十日後も漬物船格

海よへさうなりてさうと根

根

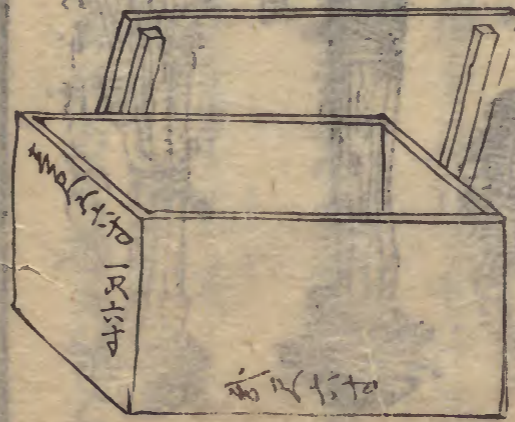
のさうと根乃見へさうなり

何れもさうなりてさうと根



右の如く  
さうと根  
はさうと根  
用いられ  
てさう

をりて在の地へ巻てくと先く歳交も一を使成りて  
 其果の紙をさして捨らば何と水は注け糸をたし日よ  
 手へ一をトよちうたる石灰上よへ一く一して元す日  
 も日み成て固のよは箱よおらへく一知るぬやう銀心よ  
 あしき入と元百本より  
 る捨本返入との之れ一と蓋  
 へ行よを直寄れがらと灰を  
 繩をりて分り巻をよと



概本  
 板本の  
 一尺六寸

其菓こも古儀のよはと蓋  
 巻をよと灰をよと色と二不  
 へひと繩何れとてけは尾  
 へりて透色はたと道中  
 一月うらるとも概とて  
 うく痛車一但水は  
 へ右のよと巻つねとて  
 一とて



蓋へ行めて  
 百本  
 〇巻せて痛む  
 中うらみのうれを  
 かしよとこめ  
 一のめりて





○又五六十年孫もあつたる  
 本乃実のたれ根接ふん  
 思ふ右乃如くして根接  
 横ふせて植へ上より根  
 控ハ切控へ二月末迄  
 芽の出んころ時植へ  
 根の切早しやうを如く  
 控へて根ふ水尻込け



水一分通少根接せてた二月末上植へたるす今日月  
 始近よ云ふもは一月中旬よ木の根尻よけて植  
 油す根移めし水たてを中よみ合も入へし  
 根よとれ時ハ却ら木接りりの人より根一絶へし  
 ○右の如く大木根横ふせて植へて根接するハ園の外  
 生の地よ根を打強かりて枝を下へ引付初らふ根出芽  
 上根切へしうとせハ後芽根あふし根尻其接し  
 の法より接り日あれぬ六月もあつたる尺ものび出へし

夏接しれれば秋接するも其接せれば其接するも時々の  
 句々なり接接するも一も得ず乃り力の夏接は其接の  
 魚

○接中へ前後の通し接へ

○春接へ夏秋よりけ種まきのひて皆いふられは其接

接しれれば秋接するも一も得ず乃り力の夏接は其接の

本植心得三事

本植の心得は三事一は種まきの時をば通し接育て  
 二は土の肥やしをば通し接育て  
 三は水の灌漑をば通し接育て

○植去地見立より根のさし入るは乃は根の後篇なり

見人点

○扱植んと思ふをば其の冬困乏たる接苗を扱起

右事も云却根の土成おし曲りたる根成より扱起

長谷切控種へ一植して其切おへ接育へ

ハ後篇の通り

○寒國めては種育て扱育たる付ゆらんと其種より其種

をよけしを合ふ夕種飛種へ一其種起して入る

是會國の一古車之有在甚肥して又土用亦肥  
 然其時土用前の肥し秋もけり出り秋芽も  
 長くのびて亦古車に比して其國より秋もけり  
 長くのびて其國より秋もけり故に其國より秋もけり  
 秋のびる時其國より秋もけりして秋も  
 の多悪く枯れしむ其國より秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 やう心得るは肥し其國より秋もけりして秋も

本種よりたる種亦肥し其國より秋もけりして秋も  
 然し其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 實多し其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も  
 其國より秋もけりして秋もけりして秋も

續編 讀 申

子法ハ又その下而代拵て接べし  
 拵ともははらざるなり  
 時ハそを乃傍し其年の夏接まし  
 たるか  
 徳の  
 多れ接あ代拵ひはらべざる  
 比伐たる基木の積子因り  
 能くそ下而代拵のうも  
 見立活種して園の如拵  
 放して種木も凡そサ守  
 種園とはのち代拵肉を  
 種木拵に

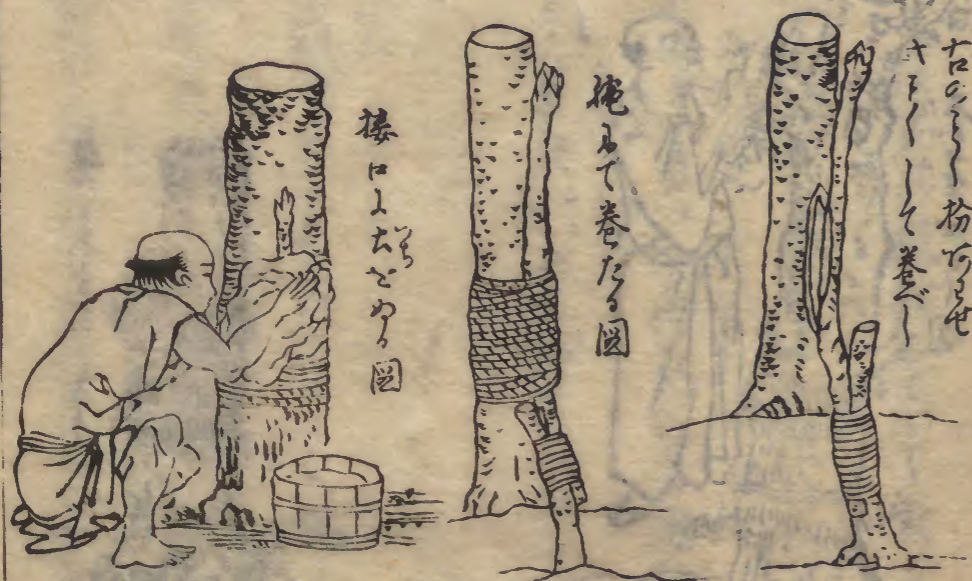
此伐たる基木の積子因り  
 能くそ下而代拵のうも  
 見立活種して園の如拵  
 放して種木も凡そサ守  
 種園とはのち代拵肉を  
 種木拵に

此伐たる基木の積子因り  
 能くそ下而代拵のうも  
 見立活種して園の如拵  
 放して種木も凡そサ守  
 種園とはのち代拵肉を  
 種木拵に



拵双方妻せ合はれ種木  
 拵木ハ一ハ華の軸々なる  
 拵幅分ふたは又大木  
 此拵は幅凡そすうり  
 其分も何れも其代拵を  
 其拵くまじし思ふ  
 其基木乃拵口の皮と種  
 其皮拵一斤もせ上下のす

拵双方妻せ合はれ種木  
 拵木ハ一ハ華の軸々なる  
 拵幅分ふたは又大木  
 此拵は幅凡そすうり  
 其分も何れも其代拵を  
 其拵くまじし思ふ  
 其基木乃拵口の皮と種  
 其皮拵一斤もせ上下のす



農家益 續編 卷之十 申 卅二

法成りし包印こと付種なり

て巻べし一板巻中へま篇

小見人兵一統して上る

雨水又城の合らざる中うち

てわり種乃不へま篇より

如く其果して色を後へま篇

○又一樹有り基本の式

もその成て石乃如く接時

根のうまをてつらうり



基本の式

基本の勢強きて背負るより何は枝取ありたる

斗をせり如く接ハ付方却らるる一付する法ハ接

より之を成へ○基本の出るせりハ他方より接

○接は日蔭小なるより中より其成りの一

植栽名

植ハ姓古より山丘小生を實小粒のれハ是成りて楯

製法はるり如く鳥籠よ味を本ハ弓乃まよ用する

その成りし移るりのハ株の實を搾りて用ひたり

八二〇年 久松先生の著  
 篇後篇中も云通つ元百余年の琉球國の産  
 一海濱の松のりら小川村とては始に植たりしより遊  
 九州中國及び今諸國に裁り此琉球より身取  
 種ありと見ゆ九段を以て植へ唐松とも琉球松と  
 もいり大高先生の說を承り久松先生黃梅を山  
 擦り充らるるも本草に狀悉ししに充りて  
 此より對馬彭水の硯あり本黃可深黄色と云ふも松  
 溪平賀子ハズと云ふ本に充らるる其木皮煮汁黄色也とて

友黄より美らるる見原益軒先生救荒本草の四ノ醋とて  
 せるらんといふも小野蘭山先生の曾亦充らるる救荒  
 本草に五倍子と生ずるも云ふも疑ふ人たはるる  
 家園に載てる形を同したる年々色をばるるの  
 半之山中露のうらるるも五倍子より琉球  
 もと云ふ山より乃種別して畢竟松の一種なり別  
 漢名より世実せりて流を播きり漢土の書に石松と  
 なるはたはあがえんじ  
 乃て山茶子乃油漢土に取るはて本邦に取用する

續篇 續編 神

色く何々如く世類のりんつて品も何れと又梅はるる西國  
 へりて極の字紙書てんトとつて大和本草に黄極と  
 書てんせし彼名甘何り種子の府中極有実と云り蠟  
 搾る事今用る極と同ト後高家黄を略し極  
 の一字を減しり昔より山丘に生る極のりんつて  
 海成極とて教ももるトりんつてと云るトとん得  
 これり引合せと云乃字は極の字をりんと書りりり  
 のるをせんころんせせつる通同よまをせ極のりんと書

もいし彼名甘何り種子の府中極有実と云り蠟  
 搾る事今用る極と同ト後高家黄を略し極  
 の一字を減しり昔より山丘に生る極のりんつて  
 海成極とて教ももるトりんつてと云るトとん得  
 これり引合せと云乃字は極の字をりんと書りりり  
 のるをせんころんせせつる通同よまをせ極のりんと書



黄極 一生高山谷今釣州鄭州山  
 野中亦有之葉圓木黄枝莖色柴  
 赤葉似杏葉而圓大味苦性寒無  
 毒木可染黄 救飢 採嫩芽煤  
 熟水淘去苦味油鹽調食

○又極の漢名烏白なるより諸書に見ゆれども  
 烏白の別種あり予去丁丑年初夏の頃南紀



然野らまの又また他たたりししか尾お終しつとと一い家か前まへよよ土ど井い氏し家か  
 しし一い人ひとちち方かた一い里りの客きやく林りん山さん所しよくくよりよりそそりり中ちゆうの  
 烏う白はくの本ほんあり其その樹じゆよりより桃とう乃の本ほん似にてて極ごくとと大だいいいよ  
 委う多たりり系けい小せう横よこ平へいよよししてて先まへよよ実じつちちりり極ごく色しきいといと見みま  
 るるりり実じつハハ八はち九く月げつ熟じやく一い物もの免めん青せい色しき後ご是ぜ一い極ごく乃の  
 実じつよりより大だい粒りやくももししににもも是ぜくく三さん粒りやくちちりり漢かん去きよめめててハハももく  
 世よ亦また成なり載のりてて蟪かいををとともも日ひ之のたりたり  
 ○揉もハハ実じつ小せう粒りやくもも右みぎ本ほん肌はだよりより出でるる液えき濃のう多たりりれれをを

是これ瓜うりよりよりてて套かぶりののととんん又またもも一い同どう種しゆなるなるははもも実じつ  
 大だい粒りやくたたももかかななありあり右みぎ乃の液えきををとともも又またもも一い同どう種しゆなるなるははもも実じつ  
 漆しやく木きのの如ごとくく木き皮かわよよ筋すぢ切きりてて液えきをを取とりりぬぬ一い粒りやくと  
 もも夏なつ揉も木きのの筋すぢ葉はとと皮かわ肉にくよりよりああるる液えき多たりり是ぜもも  
 洗せんけけべべたたららままららままくくちちりりてておおちちるる車くるまたたりり一いとと  
 のの漆しやくもも同どうとと又またもも洗せんけけてておおちちりりもも同どうとと極ごくとと見みま  
 乃の如ごとくく揉ものの同どう種しゆなるなるもも一いとと車くるまあありりくくちちりり故ゆゑもも別べつにに  
 漢かん名なもも一いとと見みままなりなり

烏白木

枝と花の写生

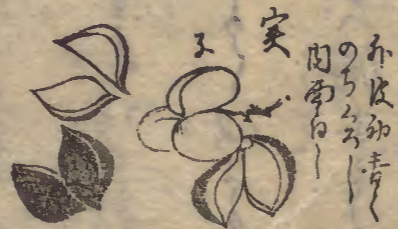


大葉 五一寸七ア  
横二寸ニニア

中葉 同一寸五ア  
同二寸

小葉 同一寸ニニア  
同一寸三ア

葉と実の写生



外皮幼青  
のち白く  
肉白く  
又

松実善画の事

松実の大小よくて大は上得矢の事年ハ其篇  
 も後篇めもハ一々其の事も松実よ其の事  
 の事と実乃其の事松実植る人の見入めも  
 らんし其の事其の事一何の事○其の事其の事  
 又葉裏よゴロクリとよその事其の事其の事  
 其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
 其の事其の事其の事其の事其の事其の事  
 其の事其の事其の事其の事其の事其の事

松山大実



松山の葉は余の木とはかゝらざるを以て長く緑を  
 与けて美しき葉の背を以てさうじ葉なり  
 中骨より鶺鴒色なり青色ありつとも實大粒あり ○世  
 松山の實は櫛ろを符符より百中より五六なるをてい本乳  
 名を骨ともさうじはせり本乳青うらぶるをい葉乃骨  
 うん鶺鴒色なり九月より起るべし鶺鴒の如く赤くまん  
 ○同じ松山のうらぶるが一の實の大小あり  
 ○大木は成ても一層なり肥すとすねが實入る



曲泉家益 續 神 外

此山中実ハ少シ実小ナルモ大実ナリ実の付ル  
 多ク得ル也  
 ○葉乃中骨大実ナリ濃ニ芳ナリ  
 殆どとも魚貝の如ク赤レクハ葉ナリモカ  
 小の方ナリ松山乃実生テ其味亦實カ  
 小方ナリ  
 べレ佐ナリ丘陵ニ大実ナリ此方ニ種  
 一春一季ニ肥トシハ大実小方ナリ大  
 多ク成テ櫛の如ク方多ク大木トナルバ何  
 圃ニモ  
 肥トセぬモ之レト入ルハ其の芳ナリモ  
 後



小実 魚貝

曲家林

續編

神

廿六

右小園の赤系色もれ事松山よ似て松山とは系  
 みじく中骨松山中実後の色よ〜てきく小骨中  
 骨もさるり実い長流み〜て平色めく肉うびく  
 にな〜松山とは大いよおと〜り悪木をぬぐ地と  
 人力で蔓れ而色も〜て植〜う〜ん

○実中れなる〜て植まばけ実の赤とれ小〜り、  
 悪木多く〜て青〜もか〜つ〜換毛なり



平五郎  
 五郎

右ノ樹ハ木ノ葉ノふちわきて瑞々中骨小骨有  
 くしと赤く葉裏ハコロクワリこみうらる如くう  
 つらなり○実平みしてちきや身ゆきじり肉厚  
 うびにふとれゆき肉もくぬり必好む植へうけ大  
 悪木なり○実の形は鳥帽子み似た色は青なりも  
 之は松山より外乃新へる鳥帽子の如く赤なり  
 ○諸國より出くる樹の実や少れて植むに皆けわく  
 悪木を植ふのたす方とすすくふ



小実

中木

地味

續

申

廿二

松の葉は、赤へる色者、松山より小豆あしとみ、  
 権北、あし、中、曾、月、さ、う、た、ら、い、た、花、の、松、山、の、同、  
 一、〇、實、の、松、山、中、實、より、少、く、小、粒、目、し、て、烏、帽、子、に、乳、  
 あり、松、山、の、あ、し、と、色、ど、の、上、ら、実、より、山、丘、の、あ、し、實、と、極、  
 了、拵、の、り、り、る、く、利、方、より、又、堀、の、汁、等、  
 〇、松、山、の、實、の、實、と、す、れ、橋、本、セ、の、し、と、極、是、は、後、  
 化、し、て、け、い、ぶ、と、さ、小、実、を、さ、る、その、ち、り、保、し、見、う、け、  
 より、揃、れ、た、り、方、より、  
 小実  
 画本





右図の木は松山の系に似て長く身卑小見え中骨赤  
 く葉裏まで赤し、物夏の比より若葉より赤く  
 く出る○実長房を平なり尖りて小粒を紅を  
 肉うけし秋の葉をくわりて肉をさわり○木肌竹を  
 葉裏も毛あるなりおて葉色赤紅の愚木より此類  
 必穂うん  
 ○右に記の愚木の図は極々植育る人れ見尚と  
 ふん記の必大実の植と橋本と極べ



小実 愚木



嘉永七甲寅歲

皇都三條通堀川下凡

越後屋治兵衛

江戶本橋通南丁目

須原屋茂兵衛

同芝神明前

岡田屋嘉七

尾州名古屋本町

永樂屋東四郎

京都寺町筋三條西

丸屋善兵衛

今三條御幸町角

吉野屋仁兵衛

大塚母橋筋北交即町

河内屋喜兵衛

今唐物町南二入

河内屋太助

發行

書肆

